

## 定例記者会見（2月）次第

平成30年2月5日（月）

午前11時～

市長公室広報広聴係

### <出席者>

酒田市／市長、副市長

企画振興部長、商工観光部長

酒田記者クラブ／各社

幹事社／河北新報、TUY（1月・2月）

### 1 開 会

#### (1) 発表事項

①第24回酒田市土門拳文化賞受賞者決定のお知らせ

#### (2) 懇談・フリー質問 [幹事社]

#### (3) その他

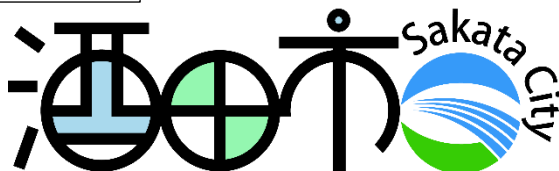
### 2 閉 会

#### ◆その他配布資料

① 地域公共交通フォーラムを開催します（商工港湾課）

② 傘福贈呈式について（観光振興課）

③ 白崎資金酒田市スポーツ優秀選手表彰式を開催します（スポーツ振興課）



平成30年2月5日

酒田記者クラブ加盟社 各位

## 第24回酒田市土門拳文化賞受賞者決定のお知らせ

「酒田市土門拳文化賞」は、本市出身の世界的な写真家・土門拳の芸術文化への功績を記念し、写真文化、写真芸術の振興を目的に平成6年6月に創設された賞です。

24回目を迎えた今回は、全国36都道府県の131人から146テーマの作品が寄せられました。

平成30年1月15日(月)、東京において選考委員会を開催し、次のとおり受賞者が決定したので、お知らせいたします。

### 1 選考委員

江成 常夫 氏	写真家	九州産業大学名誉教授
大西 みつぐ 氏	写真家	大阪芸術大学客員教授
藤森 武 氏	写真家	(公財)土門拳記念館学芸担当理事

### 2 選考結果

#### ○酒田市土門拳文化賞(1点)

「俺は負けない!」終の住処で…(モノクロ 30枚組)  
石津 武史 氏(74歳) 奈良県北葛城郡王寺町 無職

#### ○酒田市土門拳文化賞奨励賞受賞作品(3点、受付順)

- (1)「命のうた 響き合うリズム」(カラー 30枚組)  
平野 君子 氏(76歳) 神奈川県相模原市 主婦
- (2)「里山の守人たち」(カラー 30枚組)  
上原 ゆうこ 氏(68歳) 宮崎県宮崎市 コンサルタント業
- (3)「Children at Risk」(カラー 30枚組)  
清水 匡 氏(47歳) 千葉県船橋市 NGO職員

### 3 今後のスケジュール

(1) 授賞式 3月4日(日) 午前10時～ 会場:土門拳記念館

#### (2) 受賞作品展

3月3日(土)～4月15日(日)	土門拳記念館
6月5日(火)～11日(月)	ニコンプラザ新宿
11月29日(木)～12月5日(水)	ニコンプラザ大阪

## 4 選考委員講評

### <総 評>

北朝鮮の核の脅威や人命軽視、基地の沖縄、安倍一強のいびつな政治一。この一年、見過ごすことのできない難問を、新聞テレビが報じた。こうした時代と社会を正面から見据えることが、写真を志す基本と言える。

プロ写真家への登竜門を標榜する、土門拳文化賞は今年 24 回を数え、高い水準の 146 作が寄せられた。作品は国内はじめアジア、アメリカ、中東にまで及び、テーマも時代と社会を見詰めた災害、貧困、過疎、命の尊厳など多岐にわたった。

第一次審査で 28 作が選ばれたが、どの作も鋭い洞察力、確かな技術、対象に向けた真摯な眼差し等々、すでにプロとしての作家性を備えた優れた作品が多かった。

最終段階で 9 作が入賞候補として残り、国内、国外、テーマ性を念頭に、多面的に検討された。結果として、圧倒的な力を持つ石津さんの大阪・釜ヶ崎の人間像が文化賞を獲得した。奨励賞も含め今回の審査で、特に印象的だったのは、15 回から 2 回の応募者が 57 人に及び、土門拳文化賞に対する熱い思いが読み取れた。こうしたエネルギーが結果として、応募作全体の完成度を高め、年ごとの入賞を狭き門にしている。

江 成 常 夫

### <土門拳文化賞受賞作品について>

#### 「「俺は負けない！」終の住処で…」 石津 武史 氏

石津さんは大阪・釜ヶ崎周辺のドヤ街の中で生きる人々の人間模様を写して第 17 回、奨励賞を受賞している。

釜ヶ崎を終の棲家として生きる人々を奈良に住みながら十年間に渡って写し続けている。今回は釜ヶ崎の三角公園に設置した写真小屋での肖像写真である。

上半身を写した男性像はどの写真も表情豊かで、撮られることを楽しんでいる。同一ポーズの写真がない。撮り手と被写体が一心同体となっている。釜ヶ崎の人々と心を許し合っている証拠であろう。

写真からは、この地に生きる人々の過去の負の部分や悲愴感は微塵もなく、悲壮美を見事に表現している。虚勢を張ったポーズからは、かえって痛々しさが垣間見れる。組写真ならではの不思議な写真群である。

背景紙の前で写したモノクロ写真、ローキートーンの陰影のある仕上げは作品をより力強いものとしている。

藤 森 武

### <土門拳文化賞奨励賞受賞作品について>

#### ◆「命のうた 響き合うリズム」 平野 君子 氏

一昨年夏、神奈川県障害者施設での大惨事は私たちの記憶に新しい。作者は近隣の間人として、またかつて勤めていた研究学級介助員として心を痛めると同時に、「一人ひとりが、皆、大切です」ということの実践を「水泳教室」の写真撮影を通して行ってきた。防水カメラを持ち、同じ水中で子供さんたちの生き生きとした姿を活写している。タイトルにも表現されているように、私たちは誰もがこの時代に等しく生きていく権利を持っていることを写真でしっかり伝えている。

## ◆「<sup>もりびと</sup>里山の守人たち」<sup>うえはら</sup>上原 ゆうこ 氏

4世帯6人の「生活」。宮崎県日南市の山間部の集落に3年間通い取材した力作。先祖代々の土地に生きることの困難さと幸せ、四季折々の暮らし、祭り、喜び。本当の豊かさとは何かを小さな地域からしっかり見つめている。それらは表面的な写真撮影に終わることなく、人々との誠実な交流の成果として丁寧で美しいプリントに結実している。いつの時代も、写真はこうした庶民の「アルバム」を大切な証として、未来永劫、残してくれるだろう。

## ◆「Children at Risk」<sup>しみず きょう</sup>清水 匡 氏

貧困の問題は国を問わず、この先も険しい課題として私たちに突きつけられている。フィリピンのストリートチルドレンの置かれている現実には深く切り込んだ写真群は緊迫感にあふれている。NGO職員としての責務だけでなく、カメラを持つ人間として、いつしか慈しみの精神に貫かれたドキュメントまでに昇華していったのではないかと。「at Risk」のリスクとは非行だけでなく、虐待という深刻な問題にも及ぶ。カメラが世界への窓として着実に機能している。

大 西 みつぐ

## 5 応募状況

年度	回	応募者数 (男・女)	テーマ数 (モノクロ・カラー・混合)	作品枚数	都道府県
H29	24	131 (100・31)	146 (80・60・6)	3,923	36
H28	23	131 (111・20)	143 (56・75・12)	3,879	36
H27	22	135 (110・25)	143 (52・83・8)	3,892	35
H26	21	117 (98・19)	130 (64・62・4)	3,446	33
H25	20	128 (105・23)	140 (50・78・12)	3,632	41
H24	19	147 (121・26)	155 (63・79・13)	3,981	36
H23	18	156 (141・15)	161 (53・102・6)	4,179	41
H22	17	144 (127・17)	151 (68・79・4)	3,867	37
H21	16	136 (107・29)	154 (53・93・8)	2,979	35
H20	15	127 (112・15)	134 (43・89・2)	2,902	36
H19	14	147 (121・26)	155 (56・94・5)	3,442	40
H18	13	101 (81・20)	116 (57・53・6)	2,861	30
H17	12	111 (87・24)	117 (66・48・3)	2,999	32
H16	11	124 (95・29)	124 (51・69・4)	2,848	36
H15	10	110 (92・18)	120 (56・61・3)	2,849	29
H14	9	103 (84・19)	109 (49・54・6)	2,808	30
H13	8	136 (114・22)	142 (68・68・6)	3,311	35
H12	7	115 (97・18)	124 (75・47・2)	3,006	38
H11	6	119 (96・23)	127 (67・58・2)	2,739	34
H10	5	139 (108・31)	150 (74・71・5)	3,134	36
H9	4	138 (110・28)	151 (82・67・2)	3,144	37
H8	3	151 (124・27)	170 (80・86・4)	2,835	34
H7	2	104 (93・11)	114 (50・59・5)	1,938	34
H6	1	108 (103・5)	130 (62・66・2)	2,453	37

お問い合わせ／酒田市社会教育文化課 杉山

☎0234-24-2982 FAX0234-23-2257

Eメール art@city.sakata.lg.jp

第24回酒田市土門拳文化賞応募者数（地域別）調

北海道 3 2.3%	北海道 3	近畿 23 17.6%	滋賀県 3 京都府 4 大阪府 6 兵庫県 5 奈良県 2 和歌山県 3
東北 20 15.3%	青森県 1 岩手県 宮城県 4 秋田県 2 山形県 10 福島県 3	中国 6 4.6%	鳥取県 島根県 岡山県 1 広島県 4 山口県 1
関東 53 40.5%	茨城県 1 栃木県 群馬県 1 埼玉県 13 千葉県 8 東京都 16 神奈川県 14 山梨県	四国 3 2.3%	徳島県 香川県 1 愛媛県 1 高知県 1
信越 4 3.1%	長野県 3 新潟県 1	九州 6 4.6%	福岡県 2 佐賀県 長崎県 熊本県 1 大分県 1 宮崎県 1 鹿児島県 1
北陸 0 0.0%	富山県 石川県 福井県	沖縄 1 0.7%	沖縄県 1
東海 12 9.2%	岐阜県 1 静岡県 9 愛知県 1 三重県 1		計 131人
(36都道府県)			
応募テーマ	1テーマ 122人 (122作品) 2テーマ 6人 (12作品) 3テーマ 2人 (6作品) 6テーマ 1人 (6作品)		
146テーマ/3,923枚 (1テーマ平均 26.87枚)			

## 第24回酒田市土門拳文化賞受賞作品

「俺は負けない！」<sup>つい すみか</sup> 終の住処で…」

いしづ たけし 石津 武史 (奈良県北葛城郡王寺町)

※代表作1点を掲示する場合はこちらの作品をご使用ください。



石津武史氏



酒田市社会教育文化課  
芸術文化係 (担当: 杉山)  
☎(0234)24-2982  
FAX(0234)23-2257  
E-mail: art@city.sakata.lg.jp

※ 写真データが必要な場合は上記アドレスまでご連絡ください。

## 〔解 説〕

何らかの事情を抱え、故郷を捨てた人、職を失った人、家族の元を去って、辿り着いた釜ヶ崎を終の住処と覚悟を決めた人が多くいます。高度成長期に建設土木の最前線で働く日雇い労働者の街として活気に満ち溢れていた街は、今日では高齢化、不況、等で惨憺たる街に変化しています。彼等はどうしようもない閉塞感に苛まれながら自分を見失いそうなぎりぎりの環境の中で「俺は負けない！」と前向きに個々の生き方をしています。私は、毎年行われている釜ヶ崎の三角公園での夏祭りや越冬闘争で、写真小屋を設営して、仕事に役立つ証明写真や思い出写真を長年撮り続けてきました。様々な厳しい過去を背負って生きてきた生きざまが、顔の皺や表情に強い個性として表れています。

三畳一間のドヤや路上で無縁仏となる人が絶えないこの地に私は通い、彼等と会話しながら楽しくも、厳しくも、一体となり、時には逆に励まされながら撮影してきました。

石津 武史

## 第24回酒田市土門拳文化賞受賞者 石津 武史

### 略 歴

#### ○活動歴

- ・1943年 大阪生まれ
- ・1964年 日本写真専門学校卒業
- ・1964年 CMスタジオUPフォトス勤務
- ・1971年 写真店開業
- ・2005年 廃業

#### ○受賞歴

- ・2006・2007年 読売写真大賞1席
- ・2008年 読売風景写真JA全農賞
- ・2009・2011年 毎日写真コンテスト日報連賞
- ・2009年 サロンドニッコール年度賞1位
- ・2010年 JPS奨励賞
- ・2011年 酒田市土門拳文化賞奨励賞
- ・2013年 エプソンフォトグランプリフォトストーリー賞
- ・2013年 ニッコール大賞・長岡賞
- ・2015年 エプソンフォトグランプリ田沼武能賞
- ・2016年 毎日写真コンテスト文部科学大臣賞
- ・2018年 第24回酒田市土門拳文化賞

#### ○個展

- ・2010年 大阪ニコンサロンbis「日々坦々」個展
- ・2016年 大阪ニコンサロンbis「ぶらり大阪環状線」個展

#### ○所属

- ・ニッコールクラブ奈良支部



## 第24回酒田市土門拳文化賞奨励賞受賞作品（3点）

「命のうた 響き合うリズム」<sup>ひらの</sup>平野 <sup>きみこ</sup>君子（神奈川県相模原市）



### 〔解説〕

神奈川県立障害者施設「津久井山ゆり園」の、大惨事となった事件は、驚きとショックを伴って日本列島を突っ走った。

相原小時代の母親から電話が入った。「先生、Aちゃんがいるのよ。大丈夫かなあ」  
続いて、別の母親からメールが入った。「N君F君がいるのよ」  
どうしようもないショックの知らせだった。

その後、無事を知ったが、彼等のショックを思うと、いたたまれなかった。

私は、25年間、市内の公立小中学校の研究学級（現特別支援級）で、介助員として勤務してきた。

ある時、偶然、街ですれ違った青年に「あっ、大ちゃん！」30年前の記憶が蘇った。  
立派な青年だ。

「モトハシモトチョウ平野先生！」彼は、そう答えた。

あ～、やはり大ちゃんだ。「私が元橋本町に住んでいた事を覚えていてくれたんだ！」  
嬉しくって「おかあさん元気？今晚電話するね」と約束。おおらかで、協力的なお母さんだった。電話をしたが、電話の向こうはお父さんだった。お母さんは、数年前に、既に亡くなったとのこと。

「その後は、大ちゃんと二人三脚です。台所、大がやってくれます。大は、プールで頑張っています。大会があります」と聞く。

矢も盾もたまらず、プールの場所を聞いて、練習日にカメラを持って行った。

相模原市立横山市民プールへ。

代表高戸さんは、快く私を迎えてくれた。「先生も水着でプールに入ってください」ふくよかな腹、垂れ下がった胸を、どう押し込んだらいいの？と仰天したが、私の話を聞いた、現職の体育教師の友が、今風の水着をプレゼントしてくれた。

「チームあめんぼう」の、一人となった。

大会に向けて、水泳協会から、コーチが来てくれた。それに伴い、ボランティア数名、外部ヘルプサポーターと、何よりも、お母さんたちの大活躍！

私は早速、水中カメラ講座を受けに新宿へ。

そして、彼らの生き生きとした、楽しく頑張る姿の、記録撮りが始まった。

あめんぼうは、発足12年。

12年の継続は、強い力となって、彼らの水泳を、今日に続けさせている。

水に顔を入れることをあれほど拒んだ子が、目の前で、クロールを、背泳ぎをと泳ぐ。

「あっ、健ちゃんだ」「あっ、孝晃だ！」「やあ、千恵子ちゃんだ」

懐かしい面々が、水の中に顔を出す。

再び会えた君たちに、大きな喜びでカメラを向けた。レンズの向こうに見える、彼等やお母さんの素晴らしい努力と、力を、多くの皆様に伝えたいと、強く思った。

人は、いかなる時も、差別をしてはならない。

手を貸してほしい人あらば、どうぞ勇気を持って、手を貸してください。

彼等は、決して、可哀想ではないのです。

少し時間が掛かったり、時にはパニックもあるけれど、それは伝えたいことなのです。

人のそしりを言うことなく、本当は、いつも優しい彼等なのです。

一人ひとりが、皆、大切です。

可哀想ではなく、この素晴らしい親子を、讃えてください。

優しく、みんなで見守ってください。

水泳は彼等の生活の一部です。

彼等の響き合うリズムを聞いて下さい。

平野 君子

もりびと  
「里山の守人たち」  
うえはら  
上原 ゆうこ（宮崎県宮崎市）



〔解 説〕

日南市北郷の山間部に位置する河原谷部落を初めて訪れたのは2014年の秋。県道から5キロ程の山道を走り切った所で燃える様な彼岸花が一面に咲き乱れ、私を迎えてくれた。今も当時と変わらず、4世帯6人の生活が営まれている。2人の病人を抱えながら皆優しく素朴で明るい人達だ。87歳を頭に一番若いチサコさんは69歳。今回彼らの崇拝する河原谷神社の祭を中心に、真摯に逞しく自然と共存する姿を追ってみた。移り住む者も無く、少子化と高齢化の狭間で限界集落と呼ばれる地域は浮上しては消え去る運命なのだろう。3年と言う短い期間ではあるが、彼らとの交流の中で「幸せ」を改めて考えさせられた。自給自足は厳しい側面もあるが、四季折々の花に囲まれ、命を敬い合い、信心深く生きる姿は豊かな老いに繋がると確信すると共に同時代を生きる者として羨ましくも感じられる。いつまでも元気で！彼らに幸あれ！

上原 ゆうこ

## 「 Children at Risk 」 <sup>しみず</sup>清水 <sup>きょう</sup>匡 (千葉県船橋市)



### 〔解 説〕

今フィリピンでは「刑事責任年齢を9歳以上に引き下げる」という法案が議論されている。同国の犯罪の影には貧困があり、その影響を直に受けるのが子どもたちだ。ストリートチルドレンは家庭に問題を抱え、家族と共に生活できない。路上で子どもが一人で生きていくことは難しくギャングに属して身を守る一方、成人に利用され犯罪に手を染める結果となる。現在の少年法では、15歳以上18歳未満は更生施設で一時的に收容され、15歳未満においては家庭での更生プログラムが義務付けられている。しかし、現実には施設やサービスが追い付かず、15歳未満でも拘置所や青少年收容所に收容されるケースが多い。さらに、性的被害や虐待にあった子どもたちも「保護」のために鑑別所に收容されるという実態がある。

子どもたちが自らの努力で貧困から抜け出すことは難しい。しかし人が手を差し伸べることで彼らの人生を変えることができると信じている。

清水 匡

## 酒田市土門拳文化賞選考委員 略歴

### ●江成常夫（えなり・つねお）（第1回～）

- 《略歴》 1936年（昭和11年）神奈川県相模原市生まれ。  
1962年 東京経済大学卒業。同年、毎日新聞社入社。  
1974年 フリーランサーとなる。  
現在、九州産業大学名誉教授。
- 《著書》 1976年 「ニューヨークの百家族」（平凡社）  
1981年 「花嫁のアメリカ」（講談社）  
1995年 「記憶の光景・十人のヒロシマ」（新潮社）  
「まぼろし国・満州」（新潮社）  
2005年 「レンズに映った昭和」（集英社新書）  
2006年 「生と死の時」（平凡社）  
2011年 「鬼哭の島」（朝日新聞出版）ほか多数
- 《受賞》 1977年 日本写真協会新人賞  
1981年 第6回木村伊兵衛写真賞  
1985年 第4回土門拳賞受賞  
1995年 第37回毎日芸術賞  
2001年 第50回神奈川文化賞  
2002年 紫綬褒章  
2010年 旭日小綬章  
2015年 酒田市特別功労表彰  
2017年 日本写真協会賞功労賞

### ●大西みつぐ（おおにし・みつぐ）／本名：貢（第7回～）

- 《略歴》 1952年（昭和27年）東京都生まれ。  
東京総合写真専門学校卒業。同校研究室、教務室勤務。2005年まで同校の専任講師を続ける。また、東京造形大学、武蔵野美術大学、関東学院大学非常勤講師を歴任。  
現在、大阪芸術大学客員教授。日本写真家協会会員。ニッコールクラブ顧問。
- 《著書》 1989年 「WONDERLAND -1980～1989」  
2001年 「遠い夏」  
2004年 「下町純情カメラ」  
2008年 「東京手帖」  
2008年 「Wonderland」  
2015年 「昭和下町カメラノート」ほか多数
- 《受賞》 1985年 第22回太陽賞  
1993年 第18回木村伊兵衛写真賞  
1993年 江戸川区文化奨励賞  
2017年 日本写真協会賞作家賞

### ●藤森 武（ふじもり・たけし）（第13回～）

- 《略歴》 1942年（昭和17年）東京都生まれ。  
1961年 東京写真短期大学（現、東京工芸大学）入学。  
1962年 写真家土門拳に師事。  
1967年 凸版印刷(株)写真部入社。  
1970年 フリーランサーとなる。  
現在、日本写真家協会会員、日本写真芸術学会会員、公益財団法人土門拳記念館学芸担当理事。
- 《著書》 1976年 写真集「独楽・熊谷守一の世界」（講談社）  
1985年 写真集「秘仏十一面観音」（平凡社）  
1998年 「隠れた仏たち」全5巻（東京美術）  
1999年 「信楽古壺大成」（小学館）  
2001年 「鉦彫 荒彫 謎の木彫仏」（玉川大学出版部）  
2003年 「日本の観音像」（小学館）  
2005年 「仏都会津・祈りの里の仏たち」（福島民報社）  
2009年 「丹波の名陶」（求龍堂）  
2012年 別冊太陽「みちのくの仏像」（平凡社）  
2016年 「我が師、おやじ・土門拳」（朝日新聞出版）ほか多数

## 酒田市土門拳文化賞受賞者一覧表

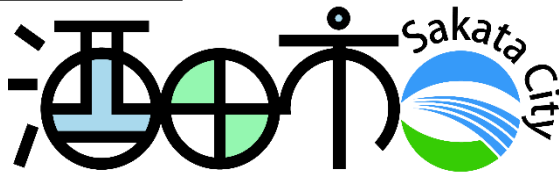
区分	土門拳文化賞	作品解説	土門拳文化賞奨励賞
第1回 平成 6年度	●鹿野 晴男（宮城県仙台市：45歳） 「都市近郊水田」カラー30枚組	仙台市内の水田を撮影し続け、農村の都市化という問題を真正面からとらえた作品	●大木 貞吉（東京都練馬区：57歳） 「人間模様」カラー27枚組 ●金井 道子（山口県下松市：51歳） 「高度成長と其の狭間の中で」カラー30枚組 ●佐藤 広志（酒田市北千日町：23歳） 「1994年、夏。」モノクロ30枚組
第2回 平成 7年度	●門脇 徹（埼玉県大宮市：31歳）東根市出身 「ムラの断片景」カラー30枚組	都市化の波の中で、変化して行く「ムラ」を独創的にとらえた作品	●大洞 東平（東京都調布市：65歳） 「銃を持たされた農民たち」モノクロ30枚組 ●宮島 功（長野県飯田市：55歳） 「雑木林」カラー30枚組 ●黒瀬輝智志（東京都中央区：29歳） 「ヒロシマ・スケッチ」モノクロ28枚組 ●中村 邦夫（福島県三春町：46歳） 「三春に生きる」モノクロ30枚組
第3回 平成 8年度	●むろはし くにえ（千葉県我孫子市：54歳） 「花の金曜日」モノクロ30枚組	女性の時代に象徴される現代の日本の一面を、女性の目でとらえた作品	●阿美 信夫（栃木県宇都宮市：72歳） 「銅山の町足尾」モノクロ30枚組 ●津田美佐子（広島県広島市：45歳） 「段原再開発に向けて」カラー22枚組 ●前田 一朗（大阪府東大阪市：49歳） 「視感都市」モノクロ30枚組
第4回 平成 9年度	●新地 ヒサアキ（長崎県大村市：48歳） 「ソルジェ、十八歳」モノクロ30枚組	障害を持って生まれたわが子を捉え、家族のきずなを新しい感覚で表現した作品	●櫻井 智子（兵庫県川西市：57歳） 「しあわせの日々」カラー30枚組 ●三井 俊樹（沖縄県那覇市：24歳） 「晴（ハル）という名の心」カラー18枚組 ●辰本 実（広島県広島市：30歳） 「命巖」モノクロ12枚組
第5回 平成 10年度	●武田 孝巳（東京都練馬区：45歳）山辺町出身 「新宿・カオスの断章」モノクロ30枚組	新宿の混沌の中に世紀末を迎えた日本の現状を捉え、独自の視点をもって表現した作品	●太田 昭生（香川県土庄町：48歳） 「魂の島・大島 ～らい予防法廃止後の今～」モノクロ30枚組 ●黒崎 晴生（長崎県長崎市：64歳） 「閉ざされた海 ～諫早湾干潟～」モノクロ30枚組
第6回 平成 11年度	●戸矢 洋栄（埼玉県上里町：29歳） 「妖精の詩 ～普遍的リアリズムを追い求めて～」 カラー30枚組	夜の街の光と影が創り出す世界を独自の感性で切り取った作品	●池田 勲（酒田市若浜町：69歳） 「きたぐにの四季」カラー30枚組 ●多々良栄里（静岡県静岡市：30歳） 「松下君の山田錦」カラー30枚組
	●中谷 晴男（神奈川県横浜市：68歳） 「輪廻転生 シヴァ神のみもとに」 モノクロ30枚組	カトマンズの社会福祉センターに住む人々の行き様を真正面から捉えた作品	
第7回 平成 12年度	●寺崎 知水（沖縄県下地町：25歳） 「生きる」 カラー28枚組	思い悩む心の中を自身の生活空間を撮ることで表現し、生きることの意味を問いかける作品	●高木サダ子（福島県いわき市：53歳） 「知床・羅臼」カラー30枚組 ●南島 孝（長野県飯田市：50歳） 「遠（おん）の断章」カラー30枚組 ●飯野 高拓（酒田市亀ヶ崎：18歳） 「想い出の通り道」モノクロ30枚組
第8回 平成 13年度	●山頭 範之（北海道帯広市：27歳） 「October 7 -アフガニスタンの歌-」 モノクロ30枚組	アフガニスタンの「今」を、民衆の生活を中心に写し撮り、混沌とした時代の中にあっても逞しく生きる人びとの思いを映し出した作品	●板垣 徳市（山形県鶴岡市：54歳） 「20世紀繁栄の礎（庄内に僅かに残る炭山・鉱山の面影）」カラー・モノクロ30枚組 ●田村 睦夫（東京都葛飾区：72歳） 「人生（あゆみ）と心象」カラー・モノクロ30枚組 ●大西 正昭（佐賀県唐津市：48歳） 「まなざしの向こうに」カラー30枚組
第9回 平成 14年度	●高木 サダ子（福島県いわき市：55歳） 「高木家の肖像 そして一年が流れて」 カラー30枚組	ごく平凡な家庭の日常を、非常に鮮やかな視線で写し撮り、普遍的な日本の家族の姿を魅力的に表現した作品。	●白畑 晋（山形県酒田市：69歳） 「砂丘地に生きる」カラー・モノクロ30枚組 ●長 洋弘（埼玉県吉見町：55歳） 「コーランの国から」カラー30枚組 ●福田 雅宏（長崎県大村市：27歳） 「諫早干拓一再生への道標」モノクロ30枚組



区分	土門拳文化賞	作品解説	土門拳文化賞奨励賞
第10回 平成 15年度	●平井 純 (東京都青梅市: 69歳) 「哀愁の町 ～西新宿5丁目界限～」モノクロ30枚組	ビルの立ち並ぶなかにも、わずかに残る町の残影を捉え、日々移り変わっていく東京の街の姿をみごとに表現した作品。	●矢萩 和幸 (山形県山形市: 40歳) 「ユウキとたくや」カラー28枚組 ●坂巻ちず子 (千葉県栄町: 65歳) 「考え悩んで」 カラー30枚組 ●大淵 正義 (大阪府藤井寺市: 22歳) 「Face to Face」モノクロ30枚組
第11回 平成 16年度	●立岡 秀之 (三重県松阪市: 51歳) 「ゴミ捨て場に生きる子供たち」モノクロ30枚組	カンボジアの首都プノンペンのゴミ捨て場で、厳しい環境の中、遅く生きている子供たちの眼差しに明日への希望を託した作品。	●永富 雪子 (埼玉県三郷市: 56歳) 「なんでもないことのように」カラー30枚組 ●松波 康男 (愛知県名古屋市: 25歳) 「エチオピアのこどもたち」モノクロ30枚組 ●柴田秀一郎 (東京都練馬区: 41歳) 「標 (しるべ) ～バス停～」モノクロ30枚組
第12回 平成 17年度	●山下 昭 (静岡県浜松市: 69歳) 「ゆめの腕 (のち) に」モノクロ30枚組	特攻隊員として戦死した実兄と、60年間わが子への哀惜を抱き続けて逝った実母への追慕を視覚化したドキュメント作品。	●松本 鶴子 (山形県酒田市: 61歳) 「黒森歌舞伎の記録」カラー30枚組 ●阿部千佳子 (神奈川県相模原市: 29歳) 「種子の時間」モノクロ30枚組 ●東 ひろみ (岐阜県美濃加茂市: 38歳) 「ルーマニアン・ラブソディ」カラー30枚組
第13回 平成 18年度	●セイリー育緒 (静岡県伊豆の国市: 38歳) 「甘い地獄」モノクロ30枚組	豊かさや自由の象徴といえるハリウッドに顕在化する影の部分に鋭い眼差しを向け、独自のカメラテクニックで切り取った作品。	●荒 多恵子 (東京都世田谷区: 43歳) 「胸神(muna kami) -乳がんになった日から-」カラー・モノクロ30枚組 ●佐藤 昭夫 (山形県酒田市: 77歳) 「私のまちのあるとき」モノクロ30枚組 ●鎌田 勉 (秋田県秋田市: 39歳) 「つながり ～西メボンの子どもたち～」カラー30枚組
第14回 平成 19年度	●奥田 彰人 (東京都中野区: 35歳) 「HAPPY PEOPLE」カラー・モノクロ30枚組	水俣市の人々をモチーフに、負の遺産から立ち直る人々の笑顔や日常の喜びをその人の言葉とともに表現した作品。	●高塚 陽一 (神奈川県相模原市: 45歳) 「路上の賢人」カラー30枚組 ●田村淳一郎 (岩手県岩手町: 70歳) 「昭和の農村」モノクロ30枚組 ●青島千恵子 (静岡県浜松市: 68歳) 「光る音: IVデリー編(インド)」モノクロ30枚組
第15回 平成 20年度	●姫崎 由美 (東京都杉並区: 42歳) 「gifted -誰かが誰かを思うこと」モノクロ30枚組	知的障がい者とのふれあいを通じて彼らの自然な姿を温かい眼差しで表現した作品。	●劉 晗峰 (福岡県福岡市: 38歳) 「旅順の中の日本 1905-1945年」モノクロ30枚組 ●徳平 尚彦 (兵庫県神戸市: 44歳) 「限界都市」カラー30枚組 ●氏家 国浩 (宮城県大崎市: 42歳) 「慈悲の花」カラー30枚組
第16回 平成 21年度	●三栖 幸生 (神奈川県厚木市: 64歳) 「時景 -ときけい-」モノクロ30枚組	東京近郊の急激な変貌を20年にわたり追い続け、斬新なカメラワークで視覚化した作品。	●堀江 柁夫 (岐阜県岐阜市: 66歳) 「海と里の記憶 (日本海沿岸と山里の暮らし)」モノクロ30枚組 ●八木 正司 (岐阜県岐阜市: 75歳) 「文楽伝承 岐阜・真桑文楽」モノクロ30枚組 ●木村 靖子 (大阪府豊能町: 70歳) 「消え去る まち」カラー25枚組
第17回 平成 22年度	●市川 恵美 (静岡県浜松市: 63歳) 「うらうへ」カラー30枚組	生命の源泉である「水」をキーワードに人間存在の明と暗を見事に視覚化した作品。	●久保 正彦 (東京都練馬区: 41歳) 「その先に見えるもの」モノクロ30枚組 ●石津 武史 (奈良県王寺町: 67歳) 「一片 (ひとかけら) の鱗 (うろこ) (漂着の街)」カラー30枚組
第18回 平成 23年度	●高橋 ぎいち (神奈川県相模原市: 63歳) 「芦川-高齢・過疎の集落で-文明社会における芦川住民の精神性」カラー30枚組	人間が生きているとは何か。今、日本が抱えている人口減少と高齢化、過疎化を山梨県・芦川集落(笛吹市)にスポットを当て10年間を記録した作品。	●木村 ハル (千葉県白井市: 52歳) 「裏庭」カラー・モノクロ混合30枚組 ●保科 宗玄 (東京都港区: 55歳) 「京島空間」カラー30枚組 ●秋山 武雄 (東京都台東区: 74歳) 「昭和三十年代、嘘、閉じれば東京セピア」モノクロ30枚組

区分	土門拳文化賞	作品解説	土門拳文化賞奨励賞
第19回 平成 24年度	●小林 勝利 (高知県高知市: 71歳) 「仁淀川遡行」 モノクロ30枚組	人間の仕合せの原点は何なのか。激変していく仁淀川上流域の集落にスポットを当て、30数年にわたって記録した作品。	●大角 勝 (静岡県静岡市: 61歳) 「濡れる空蟬」モノクロ30枚組 ●佐藤 一旭 (福島県福島市: 72歳) 「復興の進まぬ故郷を憂う」 カラー・モノクロ30枚組 ●鈴木 純平 (千葉県八千代市: 39歳) 「コスモス 母のまなざし」 カラー・モノクロ29枚組
第20回 平成 25年度	●山本 眞弓 (奈良県奈良市: 73歳) 「風の民」 モノクロ30枚組	不法地帯に暮らし、雑草のように「生きていく」人々の生活を、研ぎ澄まされた心の目で記録した作品。	●森島 輝雄 (大阪府茨木市: 77歳) 「運河彷徨」モノクロ25枚組 ●中村 明弘 (静岡県静岡市: 67歳) 「風光るとき」カラー30枚組 ●内山真衣子 (埼玉県白岡市: 35歳) 「北京ロマンチカ」カラー30枚組
第21回 平成 26年度	●坂巻 ちづ子 (千葉県栄町: 76歳) 「ファールボール」 カラー30枚組	高校球児を撮影し続ける中で、球児たちの人間性までを洞察し、球児たちが追いかける「心と物」を追求した作品。	●奥田 恭子 (神奈川県横浜市: 68歳) 「バングラデシュに生きる」カラー30枚組 ●鈴木 渉 (埼玉県入間市: 62歳) 「鎮魂そして再生への祈り ー福島、大地の祭りー」カラー30枚組 ●宮本 遼 (神奈川県藤沢市: 31歳) 「幻影」モノクロ30枚組
第22回 平成 27年度	●芦田 英次 (京都府京都市: 81歳) 「『野生魂』最後の記録」 カラー30枚組	エチオピア奥地に住み、自然との共生を続けていた少数民族の原始生活と、急激に起こった生活革命の様を記録した作品。	●和田 マサ子 (岐阜県各務原市: 67歳) 「声がきこえる」モノクロ30枚組 ●齋藤 和男 (神奈川県相模原市: 81歳) 「老老の記」モノクロ30枚組 ●海老名 和雄 (宮城県仙台市: 72歳) 「産土 (うぶすな) と震災」モノクロ30枚組
第23回 平成 28年度	●ストラーン 久美子 (神奈川県横須賀市: 61歳) 「横須賀ブルー ペルリ164年目の再上陸を想起する」 カラー30枚	1853年のアメリカ使節ペリー艦隊の来航と日米和親条約の締結という大きなテーマの今を横須賀周辺で映像化。写真の実在性やリアリティにあふれた作品。	●高田 啓一 (鳥取県鳥取市: 68歳) 「現在を生きる」モノクロ30枚 ●上出 優之利 (東京都新宿区: 54歳) 「モノクロのブルース」モノクロ30枚 ●岡田 治 (和歌山県田辺市: 57歳) 「お良さん」カラー30枚
第24回 平成 29年度	●石津 武史 (奈良県北葛城郡王寺町: 74歳) 「「俺は負けない！」終の住処で…」 モノクロ30枚	大阪・釜ヶ崎周辺のドヤ街の中で「俺は負けない！」と前向きに生きる人々の肖像写真。モノクロのローキートーンの仕上げによる力強い作品。	●平野 君子 (神奈川県相模原市: 76歳) 「命のうた 響き合うリズム」カラー30枚 ●上原 ゆうこ (宮城県宮崎市: 68歳) 「里山の守人たち」カラー30枚 ●清水 匡 (千葉県船橋市: 47歳) 「Children at Risk」カラー30枚





平成30年2月5日

酒田記者クラブ加盟社 各位

## 地域公共交通フォーラムを開催します

このたび、「もっと便利で地域に愛される公共交通を目指して」をテーマに、地域公共交通フォーラムを開催いたします。

詳細は下記のとおりです。

つきましては、PR等に関し特段のご配慮を賜りますようお願いいたします。

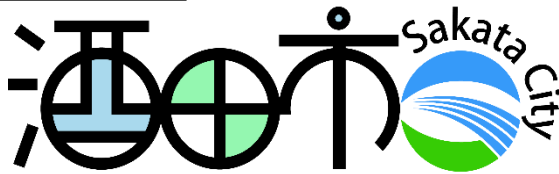
- 日 時／2月18日（日）午後1時～4時40分
- 場 所／希望ホール小ホール
- 対 象／どなたでも
- 費 用／無料
- 主 催／酒田市地域公共交通会議
- プログラム／
  - (1) 開 会・あいさつ 酒田市副市長 午後1時～1時10分
  - (2) 基調講演 午後1時10分～2時40分  
「もっと利用したくなる公共交通（仮称）」  
福島大学准教授 吉田 樹 氏
  - (3) 休 憩 午後2時40分～2時55分
  - (4) パネルディスカッション 午後2時55分～4時30分  
「もっと便利で地域に愛される公共交通を目指して」  
コーディネーター 東北公益文科大学 学部長 神田直弥 氏  
パネリスト 福島大学准教授 吉田 樹 氏  
庄内交通株式会社 （人選中）  
利用者代表 東北公益文科大学 学生（人選中）  
酒田市商工観光部長
  - (5) 閉 会 午後4時40分

●お問い合わせ／商工港湾課生活交通係

小野慎太郎

TEL26-5756、FAX 22-3910

Eメール shoko@city.sakata.lg.jp



平成 30 年 2 月 5 日

酒田記者クラブ加盟社 各位

## 傘福贈呈式について

このたび、酒田商工会議所女性会より傘福が本市に寄贈されます。  
つきましては、取材等に関し特段のご配慮を賜りますようお願いいたします。

### ◆ポイント

- 市役所本庁舎完成を記念して、傘福 2 基を酒田商工会議所女性会が製作、本市に寄贈します。
- この傘福には、子どもの成長や家族の健康・幸せ、酒田の繁栄の願いが込められています。
- 傘福は、酒田雛街道の期間中、市役所 1 階ロビーに展示します。

### 【傘福贈呈式】

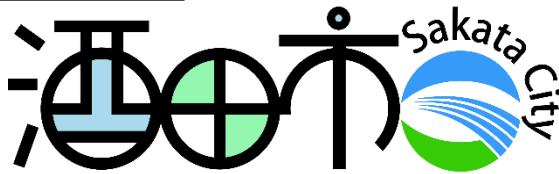
- 1 日 時 2月20日(火) 午前9時
- 2 場 所 市役所1階ロビー
- 3 贈 呈 品 傘福 1対(2基)
  - (1) 信仰の傘福(細工物の数506個)
  - (2) 宝づくし(細工物の数637個)
- 4 贈 呈 者 酒田商工会議所女性会
- 5 設置場所 市役所1階ロビー  
2月20日(火)～4月3日(火)(予定)

### ●お問い合わせ

観光振興課 観光交流係 斎藤則子

TEL 26-5759、FAX 22-3910

Eメール kankou@city.sakata.lg.jp



平成 30 年 2 月 5 日

酒田記者クラブ加盟社 各位

## 白崎資金酒田市スポーツ優秀選手表彰式を開催します

このたび、標記表彰式を開催します。

つきましては、取材等に関し特段のご配慮を賜りますようお願いいたします。

### ◆ポイント

#### ○白崎資金とは

かつて中町二丁目において外科医院を開業された白崎重弥先生のご好意により設けられたものです。昭和 55 年から先生のご意志に基づき、酒田駐車ビルの土地に係る収益を充てて運営している白崎資金により、毎年本市スポーツ優秀選手を表彰しています。

今年度も小中学校および各競技団体より推薦された選手の競技成績について審査し、受賞者を決定しています。

○日時／2月24日（土）午前10時～11時（予定）

○場所／酒田市公益研修センターホール

○対象／大学生1人、高校生4人、中学生12人、小学生93人

計110人（1月25日現在）

○表彰規定／各区分における優勝者またはオリンピック等世界大会出場者

- ・高校生・大学生・一般は全国大会以上
- ・中学生は東北大会以上
- ・小学生は県大会以上

### ●お問い合わせ／

スポーツ振興課スポーツ振興係 乙坂哲也

TEL 43-6651、FAX 23-2257

Eメール [sports@city.sakata.lg.jp](mailto:sports@city.sakata.lg.jp)